

# 砂丘

発行：独立行政法人 国立病院機構

 鳥取医療センター

発行責任者：下田 光太郎

## 理念

1. 人類愛に基づく、質の高い医療を提供する。
2. 患者本位の医療体制を確立し、十分な説明と同意の下に、自由意志を尊重し、人としての尊厳を守る。
3. あらゆる情報の公開に努め、医療人としての自己研鑽に努める。

## トピックス

1. ロボット病棟プロジェクト
2. パーキンソン病のリハビリテーションについて
3. 認知症病棟開棟
4. 2病棟改修工事終了
5. 誤嚥性肺炎予防の口腔ケア



## ロボット病棟プロジェクト

院長 下田 光太郎

現在日本では4人に一人が65歳以上の高齢者となりました。さらに2025年に団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、2035年には3人に一人が高齢者となると推計されています。その時の社会保障費(年金、医療費、介護費、子育て等の費用)の財源を如何にするかが大きな問題になっています。さらに深刻なのは少子高齢化の中での労働人口不足です。特に高齢化とともにその有病率が増える認知症患者さんは700万人を超えると厚労省が推定しているなか、医療現場での人材不足が深刻になる事が予想されています。

日本で最小人口の鳥取県人口はつい数年前は60万でしたが今や58万人台となっています。さらに深刻なのが少子化とともに若者の県外流出による労働人口不足です。医療介護の必要な高齢者や様々な障害を持った人たちを現在の人たちだけで看取りまで出来るのでしょうか。鳥取県東部における医療介護に関わる医師、看護師、リハビリスタッフ、介護者等の専門職種不足は慢性化しているのが現状です。現場では一人で何人もの高齢者を同時に見る状態が恒常化しつつあります。この問題に対する一つの解決策がIT化、あるいはIoT、IoTで究極は人工知能AIを備えた人型ロボットの登場です。人に替わる様な人型ロボットは未だ技術的な問題やクリアしなければならない倫理的問題等が多くありますが、最近のコンピューター技術やITの進歩はめざましいものがあり、実際の医療現場に導入される日も近くなってきました。そうした中で我々も、ITを駆使したシステムを開発し、医療・介護の現場に積極的に応用することによりそうした難題に対処しようと考えています。

(2面へつづく)

鳥取医療センターでは平成28年6月30日に当院が関わる感情医工学研究所のビジネスパートナーであるIT企業ラシック社とともに共同事業を立ち上げることとなりました。県発の株式会社ラシックとともに立ち上げる共同事業は「ロボット病棟プロジェクト」です。

ロボット病棟プロジェクトでは、ITやIoT技術、ロボットなどを活用した省電力化・効率化・代替化・客観化、その他さまざまな活用方法を提案・検討します。少子高齢化社会や医療従事者不足に対応する地域医療の支援を目指します。また、事業推進に当たってはオープンイノベーション形式を採用します。国内外のベンダーから広い知見を集めて問題解決にあたり、より高いレベルでの業界・社会貢献を目指します。プロジェクトの目的は「患者ケアの向上、家族安心の向上」「医療スタッフES向上」「オープンイノベーションによる業界・社会貢献」の3つです。検討例としては、ITやIoT技術を使った医療業務の効率化、感情解析技術を活用した客観的な感情状態の把握、ロボットによる患者の心のケアなどを挙げています。

当院の役割はロボット導入のための実証研究の場の提供です。認知症治療病棟ならびに回復期リハビリテーション病棟におけるロボット病棟化の試みです。従ってこの事業は臨床研究部における委託研究として共同事業を行なう事となります。具体的には病棟業務全体をシステム化しITを利用した省力化を行ないます。現在の入院治療介護訓練プログラムを時間の流れの中で可視化し、その評価効果を実績として示すようにしたいと考えています。その中では患者さんへの対応や認知機能、感情、表情等のITによる評価を導入し、さらには介護ロボットやリハビリテーションロボットの導入を考えています。特にこれまでに導入されたペッパー君やパルロ君は実際の病棟プログラムの中で働いてもらう事を計画しています。来るべき少子超高齢化社会におけるAIの導入への道標となればと考えています。今後の事業の進展にご期待ください。

## ● パーキンソン病のリハビリテーションについて ●

理学療法士長 今井 靖 二

パーキンソン病は、原因不明の神経変性疾患です。しかし、近年原因解明も徐々に進んでおり、治療も進歩してきています。薬剤の進歩も目覚ましいですが、リハビリテーションの分野も徐々に効果が示されてきています。2011年に出されたパーキンソン病治療ガイドラインにおいては、運動療法は、身体機能、健康関連QOL、筋力、バランス、歩行速度の改善に有効であると示されました。

当院では、パーキンソン病の方に対して、外来及び入院にてリハビリテーションを提供しています。以前は、日常生活が送りにくくなるまで病状が進行してからリハビリテーションを開始していました。しかし、近年は日常生活を一人で送れる状態を長く保つという目的で、パーキンソン病であると分かればより早い段階からリハビリテーションを導入するように勧められています。

また、当院が力を入れていることとして「短期リハビリテーション入院」があります。4週間のリハビリ

テーション入院を行うと行わなかった方に比べ、1年後に重症度が悪化しておらず、薬の量も減っていたという研究が報告されました。さらには症状が軽度の方にも有効であったデータも追加されました。これらの効果を参考に当院でも「短期リハビリテーション入院」を開始しており、一定の効果が得られています。

しかし、症状が軽い方はお仕事や家事の都合で4週間の入院に抵抗があるという意見をよく耳にします。リハビリテーションの方法や入院期間については、患者さんの生活スタイルを大きく崩さないよう相談させていただき、より短い期間のコースも提供させて頂いています。まずは、自分に合った運動習慣をつける事、日常生活を快適に送れる工夫を身につける事を目標にしています。

パーキンソン病のリハビリテーションに関して、ご質問・ご相談が有りましたらお気軽にご相談ください。また、ホームページもご参照ください。

# ○ 認知症病棟開棟 ○

診療部長 高橋 浩 士

7月1日、50床の認知症治療病棟がオープンいたしました。

「入院すれば、もの忘れが治るの?」とか「うちのおじいちゃんをずっと預かってみてもらえるの。」と思われる方もいらっしゃると思いますので、当院の認知症治療病棟のコンセプトから述べさせてもらおうと思います。

## コンセプトは

**「患者さんが歩いてきて、笑顔で歩いて帰る。」**

残念ながら今の医学のレベルでは、アルツハイマー病などの認知症の進行を食い止める、いわゆる根治薬というものはありません。従いまして、当院の認知症治療病棟も記憶障害を中心とした認知機能障害を治す場所ではありません。

それでは、何をするとところかと言いますと、一過性に悪化した興奮・幻覚・妄想などの行動・心理症状(BPSDと言います)を軽減し、ご自宅あるいは施設での生活にお帰り頂く事が目的です。

今でも病院に入ったら、「薬漬け」や過度の抑制(拘束)で行動・心理症状がかえってひどくなったとか、逆に何も喋らなくなった、さらにひどいと寝たきりになってしまったという話を耳にするかと思います。当院は、それとは逆です。認知症の人でも感情や心身の力は豊かですので、声に耳を傾け、その人らしく生きていく支援を中心としたケアを、環境を整え、チーム医療として行っていきます。

コンセプトは、認知症の**人**を中心とし、入院環境を提供する事により**「患者さんが歩いてきて、笑顔で歩いて帰る。」**です。

## 当院の認知症病棟の4つのアドバンテージ(長所)

当院の認知症病棟のアドバンテージは何でしょうか? 次の4点が挙げられます。

1点目は、**神経内科と精神科の連携**です。一般に認知症の初期は鑑別診断の得意な神経内科が、症状が重くなってくると薬物療法が得意な精神科にバトンタッチするため、引き継ぎが上手くいかない事がたびたびあることが知られています。当院では連携は万全です。

2点目は、**神経内科医師が多い**事です。常勤医9名は鳥取県中部・東部では一番ですし、大学病院を除け

ば全国的に見てトップクラスです。当院ではすでに物忘れ外来を実施しており、グローバルスタンダードな認知症の早期診断の実績があります。また、精神科医のみの認知症センターとは違い、神経内科医がいる事で身体合併症を持つ方も受け入れ可能です。そもそも一過性の行動・心理症状の悪化は、ちょっとした体の不調が誘因であることも多く、心と体両面から支える体制があることは大きな長所です。

3点目は、まさに進行中の、最新のITを導入した**「ロボット病棟」**です。すでにPepper、パルロたちロボットが、歌・踊りに大活躍中ですが、さらには病棟内で患者さんとの会話などを通じ、症状の悪化を事前に予測・予防する「Dr.Pepper」として治療へも参加予定です。またウェアラブルデバイスを活用し、患者さんの病棟生活を絶えず見守ると共に、IT化、IoT化を進め病棟内の事務作業の効率化をはかることで、病棟スタッフが患者さんとの心のケアに専念できるような体制を準備中です。

そして4点目、これが最も大事な事ですが、チーム医療に携わる当院の看護師、作業療法士、認知症ケア専門士など**パラメディカルのスタッフが優秀**であることです。今回、短期間に素晴らしい病棟立ち上げができたのも、多職種の多くの優秀なスタッフの多大な尽力のおかげです。この場を借りて感謝の意を述べたいと思います。

認知症のサポートは決して病院や施設だけで行えるものではなく、ご家族そして地域の皆様の認知症という病気に対する理解と、認知症の「人」としての関わり合いがあって初めてできるものです。行政のサポートも欠かせません。スタッフ一同尽力して参りますので、今後とも認知症治療病棟をよろしくお願い申し上げます。



## ● 2病棟改修工事終了 ●

看護師長 矢島 玲子

2病棟は、地域医療としての呼吸器・一般内科、および県内の結核専門病棟として機能しています。このたび、一般病床の増床工事が終了し、平成28年6月1日から結核5床(陰圧病床)、一般44床で再スタートいたしました。結核病床では、鳥取県東部圏域を中心とした県内の結核患者の受け入れを担っており、クリティカルパス・DOTS(直接服薬確認療法)を導入し、患者さんやご家族の方々に安心して治療が受けただけできるよう支援を行っています。一般病床では、肺炎・呼吸不全・心不全などの呼吸器内科と一般内科、パーキンソン病などの神経内科の患者さんが入院しています。パーキンソン病患者の短期集中リハビリテーションにおいては、プログラムに沿って、早期より積極的なリハビリテーションを行っています。目標は、

在宅生活に向けた身体機能、筋力、バランス、歩行速度などの改善など日常生活が快適に過ごすことができ、患者さん一人ひとりにあった運動習慣を身につけて退院できることです。今後も入院から在宅に向けて、地域と連携をもちながら、患者さん一人ひとりのQOL向上のために、「笑顔で丁寧に」をモットーに、患者さんが安全に安心して治療が受けられるよう支援を続けていきたいと思っております。また増床した病室は、病棟の南側に位置し、四季折々の景色が感じられる湖山池を眺められる絶好のスポットに癒されています。毎日、訓練をしている患者さんの前向きな姿に、人間の生きる力と強さを感じ、私たちの活力にもなっています。



増床した病室



パーキンソン患者のリハビリテーションの様子



元気に働くスタッフ





# ○平成28年度永年勤続表彰について○

庶務係長 福 谷 晴 美

去る、平成28年5月9日に当院大会議室において、平成28年度の永年勤続表彰式が挙行されました。式では、長年にわたり国立病院機構に勤務し、医療の発展と向上に寄与してきたことの功績をたたえられ、下田院長から表彰状と記念品が授与されました。

なお、今回表彰されたのは次の方々です。

勤続30年	井上 一彦	勤続20年	本永 興一
	三好 浩一郎		尾崎 竜也
	清水 泰史		今西 理
	菅原 真知子		中山 雅子
			下田 順子
			山本 成美
			池田 紀子
			太田 くによ



## ○ 転入者ご挨拶 ○

①氏名 ②職場・職名 ③出身地 ④趣味・スポーツ等 ⑤ひと言

- ①山本 恵梨香
- ②2病棟・看護師
- ③米子市
- ④バドミントン
- ⑤できるだけ早く慣れることができるように日々頑張っていきたいと思いをます。よろしくお願いします。



## ○ 新職員ご挨拶 ○

①氏名 ②職場・職名 ③出身地 ④趣味・スポーツ等 ⑤ひと言

- ①竹山 遙香
- ②作業療法士
- ③福岡県
- ④お菓子作り
- ⑤福岡県の福岡リハビリテーション専門学校から来ました。鳥取県で初めての一人暮らしなので慣れないこともありまだまだ未熟です。色々学び、頑張りたいと思っています。よろしくお願いします。



- ①曾禰 智紘
- ②作業療法士
- ③島根県 ④ピアノ
- ⑤よく「何て読むの？」って言われるソネと申します。精神科領域には大いに興味があった為、念願叶って感無量です。黄色い周辺物品を集めるのも趣味の一つであります。仕事に関しても無理はせず、自分のできる範囲で患者様と一緒に歩んで行けたらと思います。



- ①吉村 健吾 ②言語聴覚士
- ③米子市 ④食べ歩き
- ⑤言語聴覚士の吉村と申します。米子市出身で、今は湖山で独り暮らしをしています。趣味は食べ歩きです。ラーメン、焼肉、パンなど、おいしいお店があれば、是非とも情報交換してください。言語聴覚士としては、まだまだ未熟ですが、精一杯がんばっていきますので、よろしくお願いします。



- ①澁谷 恵 ②言語聴覚士
- ③倉吉市 ④舞台観賞
- ⑤はじめまして、倉吉市出身の澁谷恵と申します。趣味は舞台観賞ですが、ディズニーリゾートに行くことも大好きです。ディズニー好きな方がおられましたらぜひお話ししましょう。まだまだ未熟な言語聴覚士ですが、日々勉強して頑張っていきたいです。よろしくお願い致します。



- ①山口 仲子
- ②9病棟・業務技術員
- ③岩美町
- ④登山
- ⑤5月から9病棟の皆様にご指導して頂いてあっという間に2か月が経ちました。登山でいうと5合目あたり、健康に留意しながらマイペースで頑張っていこうと思います。よろしくお願いします。



- ①田中 成美
- ②栄養士
- ③鳥取市
- ④映画鑑賞
- ⑤5月から働かせて頂くことになりました。まだまだ分からない事ばかりで、先輩方にたくさんの事を教えてもらう毎日です。できる事から少しずつ頑張っていきたいと思いをます。よろしくお願いします。



- ①小林 真弓
- ②2病棟・看護師
- ③鳥取市
- ④旅行
- ⑤新しい環境で分からないことばかりですが、日々スタッフのみなさんと患者さんと頑張っていきます。よろしくお願いします。



- ①伊賀 由希菜
- ②1病棟・看護師
- ③兵庫県
- ④旅行
- ⑤慣れないことも多いですが頑張りますのでよろしくお願いします。



## ○ 職場紹介 ～リハビリテーション科～ ○

理学療法士長 今 井 靖 二



私たちリハビリテーション科では、脳血管疾患、神経筋疾患、重症心身障害、精神疾患、呼吸器疾患（結核を含む）等に対して、チーム医療の一員として高度で専門的なリハビリテーションを提供しています。今年度は新職員を7名迎え、総勢37名の大きな組織となりました。

リハビリテーション科の特徴は、大きく2つに分かれます。1つ目は、在宅復帰のためのリハビリテーションを365日休みなく行います（日常生活の自立を目標に）。2つ目は、病気の進行に伴い長期の入院生活が必要になった患者さまには、日常生活が豊かに送れるようにさまざまな支援をします（例えば自力で歩けなくなった患者さまには、ご自分の身体に合った車椅子を提供しいつでも外出できる準備など）。

H28年度リハビリテーション科スローガンは、『Fun・Fun・Fun～患者さんを楽しく・地域を楽しく・スタッフも楽しく』です。リハビリテーションを通じて地域医療に貢献したいと考えています。



## ○ 職場紹介 ～療育指導室～ ○

療育指導室 主任児童指導員 前 田 勝 也

療育指導室は、療育指導科長・児童指導員3名・保育士6名の10名で構成されている福祉職です。重度の知的障害と重度の肢体不自由が重複した重症心身障害児者の入院患者さんに、生活指導や療育活動を通して健全育成・福祉の増進等を図っています。

療育活動では、季節ごとの行事や外出支援、ボランティアの方々に協力をして頂きながら音楽演奏会や絵本の朗読会、電子紙芝居等の行事などを行っています。

また、家族支援をはじめ、都道府県や市町村、相談

支援事業所との連携など、患者さんが当院を利用するために必要な障害福祉サービスに関わる対応を行っています。

患者さんは日々命と向き合って生活をされています。そういった中で患者さん同士や家族、職員も含め楽しい時間を作り共有していく、これが幸せなひと時に繋がればと日々努力しています。

私たちが行っていることは決して派手ではありませんが、患者さんの生活が充実したものとなるよう着実に進めていきたいと思えます。



# ご存知ですか？ 誤嚥性肺炎の予防に、口腔ケアは効果があります！！

摂食・嚥下障害看護認定看護師 橋本由美子

誤嚥とは、唾液や食物、胃液などが気管に入ってしまうことをいいます。その食物や唾液に含まれた細菌が気管から肺に入り込むことで起こるのが誤嚥性肺炎です。

高齢者の肺炎のうち7～8割は、誤嚥性肺炎であると言われています。特に臥床中むせのない状態で、唾液を少しずつ誤嚥することを「不顕性誤嚥」といい、肺炎を繰り返して生命の危機をまねくこともあります。誤嚥性肺炎の予防には多くの対策を必要としますが、口の中を清潔に保つことは、誰にでもすぐに始められる予防であり、継続していただけるケアの1つです。



写真1)  
肺炎発症し経口摂取中止となった患者さんの口の中の様子です。

## 《この患者さんに起こっていたこと》

- ①食事を食べない事により、唾液の分泌が減少し口腔内乾燥していた。
  - ②食事を食べないので、口腔ケアは必要ないと判断されケアが不十分であった。
  - ③発熱があり、口呼吸しており、そのため口腔内の痰も付着し乾燥していた。
  - ④食事が中止となり、咀嚼・嚥下に関する機能が低下し、舌も出し入れができない。
  - ⑤喉の奥にも乾燥した痰が付着し、声も出せなくて、意識ももうろうとしていた。
- そこで、口腔ケアの方法を提案し実施しました。

## 《口腔ケアの実施》

- ①患者さんに声かけして、意識状態の確認をした。
- ②歯ブラシを握らせ、目線に歯ブラシを合わせて、ケアの説明をした。
- ③ベッドを30度背上げし、ややうつむき加減に顎を引き、枕を高くし誤嚥防止した。
- ④患者さんに説明しながら、口唇から口腔内へ保湿ジェルを塗布した。
- ⑤5分程して、スポンジブラシを水に濡らし絞り、頬の筋肉を延ばしながら粘膜を拭く。
- ⑥スポンジブラシに付着した痰は、ティッシュに拭きとり水で洗浄し繰り返す。

- ⑦口蓋・舌は奥から手前に回転させながらスポンジブラシを操作して、汚染物を誤嚥させない。舌を上から押さえ機能低下予防をする。
- ⑧水を湿らせた歯ブラシを患者さんに持たせて、自力で磨くように介助した。
- ⑨仕上げ磨きは湿らせた吸引付き歯ブラシで、痰・歯垢・唾液など吸引しながら施行し、終了後保湿ジェルを薄く口唇・口腔内に塗布した。



写真2)  
口腔ケア後の患者さんの口の中の状態です。

## 《口腔ケア後の患者さんの変化》

- ①口腔内をケアにより、脳の働きの活性化を図り、意識状態が改善された。
- ②口腔の清掃、口臭が除去できた。(口腔内の細菌を減少できた)
- ③スポンジブラシ、歯ブラシにより歯肉・頬部のマッサージができた。
- ④乾燥した痰の付着を取り除き、口腔内の知覚機能が向上した。
- ⑤唾液腺が刺激され唾液分泌促進となった。
- ⑥摂食・嚥下の障害の予防・維持・改善が期待できる。(舌も突出できるようになった)
- ⑦患者さんが笑顔になり、声を出して話せるようになった。
- ⑧継続してケアをおこない、肺炎の再発防止を図ることができた。

最後に、私の尊敬している 小山珠美先生の言葉をお借りして、  
「口は呼吸、栄養、コミュニケーションの要。生命の源ともいえるのではないのでしょうか。口腔ケアは、人間としての尊厳を守ることにもつながっていると実感しています」

口腔ケアで、お悩みの方はご相談ください。

# 外来診療科担当医表

独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター

平成28年4月1日現在

		月	火	水	木	金	
内科	循環器	松本		松本	松本	松本	
	呼吸器	山本	山本	山本			
神経内科	1	高橋	齋藤 (てんかん)	井上	金藤	土居充	
	2	下田	下田	金藤 (嚙下外来)	土居充	田中	
	3	小西	田中	齋藤	小西 (井上)		
	4			北川	三島香		
	5						
	専門外来 (予約制)	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害 てんかん	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害 嚙下障害 てんかん	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	
もの忘れ外来		高橋 (午後)		下田 (午前)		小西 (午前)	
小児科		中野	小松	赤星	中野	赤星	
	専門外来 (予約制)		発達外来 赤星	発達外来 中野			
精神科	初診	診察室1	休診	休診	助川	休診	
		完全予約制ですので事前の予約が必要です。					
	再診	診察室1		助川			坂本
		診察室2		坂本	土井清	助川	土井清
		診察室3		岩田		幡	柏木
		診察室5		池成		高田	林
		診察室6					
診察室8							
専門外来 (予約制)				睡眠外来 坂本			
外科		古澤	古澤	古澤	古澤	古澤	
整形外科 (隔週：8:30~13:00)			市立病院 医師				
リハビリ入院相談 (13:00~15:00)	地域医療連携室	齋藤	土居充	土居充	齋藤	齋藤	

- ◆所在地 〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876番地
- ◆電話 0857-59-1111
- ◆診療受付時間 午前8時30分~午前11時30分
- ◆専門外来診療時間 午後1時30分~午後3時00分(睡眠外来の受付時間は午前中です)
- ◆休診日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始、ただし、急患の方はこの限りではありません。
- ◆ホームページ <http://tottori-iryjo.jp/>
- ◆地域医療連携室 TEL 0857-59-1111 (内線275) FAX 0857-59-0713